

茨木市立豊川小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和5年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------------|---------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | やや課題が残る結果であった |
| ②情報の扱い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ③話すこと・聞くこと | 課題が残る結果であった |
| ④書くこと | やや課題が残る結果であった |
| ⑤読むこと | 課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | やや課題が残る結果であった |
| ③記述式 | 課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ もっとも正答率の高かった設問
送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるか。
- ・ もっとも正答率の低かった設問
図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか。

分析

1 傾向

読むことについては比較的良好であったが、書くこと、特に条件付きの作文について課題がある。文章を目的に合わせて要約する力や敬語の使い方、情報を整理する力にも課題が残る。

2 成果

毎年実施している漢字検定に向けた漢字の学習により、漢字の習得に成果が出ている。

3 課題

字数制限がある中でキーワードを使って文章で表現する力に課題がある。

4 授業での重点的な取組み

- ・ 情報を整理して必要な箇所を見つける活動や、まとめごとに要約する活動を取り入れる。
- ・ 読書活動でインプット(思考・判断)し、読書メモや感想文によってアウトプット(表現)する学習を日常的に実施する。
- ・ 取組みや行事、授業後など、日々のふりかえりの際にも国語の観点で添削して大切に書くよう指導する。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|---------|---------------|
| ①数と計算 | やや課題が残る結果であった |
| ②図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③変化と関係 | やや課題が残る結果であった |
| ④データの活用 | 課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問
伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるか。
- ・もっとも正答率の低かった設問
高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるか。

分析

1 傾向

「数と計算」、「図形」領域は概ね良好だが、「データの活用」領域に課題がある。
筆算等、基礎計算は身についているが、その意味や考え方を説明する力には課題がある。

2 成果

図形指導の際、導入時に折り紙など実物を使って丁寧に確認してきたことで、重なりがある図形や裏返しの図形でも感覚的に捉えやすくなる成果があったと考えられる。
全体的に無解答率は低く、日頃より諦めずに取り組むように指導してきた成果を感じる。

3 課題

筆算はできるが、その途中の数値が何を表すのかを理解しきれていない。
記述式の問題で、大切な部分を落とさずに言葉や数を使って表現することに課題がある。

4 授業での重点的な取組み

- ・新しく学習する計算では、時間をかけて意味理解を促した上で筆算の仕方などを指導している。しかし、定着のための繰り返し学習は行っているが、なぜそうなるかを問い直す時間が少なかったと考えられる。今後は次の学年で学習する際にも、筆算ができることを当たり前せず、なぜこういう筆算の形になるのかを再確認する時間をとるなどして、意味理解の定着を意識する。
- ・算数においても読解・表現の力が求められる。文章問題に取り組む際、要点や数字に線を引いたり、式と答えだけでなく図や数直線を用いて思考したことを表現したりする活動を日常的に取り入れていく。
- ・学習内容を算数だけにとどめず、教科を越えて総合的・横断的に活用できる取組みを実践する。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

ペアやグループでの学習に制限があり、「聴きあい学びあう授業づくり」への影響が大きかった2年間と比べ、国語・算数ともに平均正答率が向上している。無解答率についても同様に、年々無解答の児童割合は減少している。

全国比では正答率が下回っており、無解答率は上回っているが、差は少しずつ縮まってきている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

両教科ともに学力高位層の児童も、エンパワー層の児童も増加しており、学力面での2極化が見られる。特に国語でその様子が顕著となり、文章表記（記述）の面で学力の底上げが必要である。

下記の取組みを進めつつ、すべての子どもが共に学びを深められるように、学び合いの質を向上すべく、研究をすすめたい。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

授業づくり・・・「聴きあい学びあう授業づくり」を豊川中学校区で取り組み、教職員が子どもの姿から学んだことを話し合い、共有しながら授業力を伸ばし、子どもたちが意欲的に取り組める授業をめざす。ペアやグループ活動を通して、一人も取り残さない、全員参加の授業づくりに取り組む。

家庭学習・・・「生活アップ月間」として年3回（6月、11月、2月）家庭学習と生活リズムの向上に重点的に取り組み、家庭や子どもたちに意識を促す。
普段から25分休み、昼休みには授業で分からなかったところや課題が残っている子を支援する学習室を開放し、放課後には算数の宿題を中心に支援を行っていく。（SSR）
家庭学習（宿題）の出し方も検討し、作業的にならず、思考を促す内容を増やす。

読書活動・・・朝読書は、教職員も一緒に読書をし、集中して読む環境をつくる。
校内で共有できるよう全校で同じ図書を使って「ペア読書」も取り入れ、読後に言語活動を行うことを意識して内容について感想や意見を交流する。
スクールサポーターとともに、より図書館利用が高まり、本を好きになる子どもが増えるように教室や図書室の環境を整える。
大学生やボランティア、保護者、教職員シャッフルの読み聞かせなどを行う。
図書の授業時間の有効活用を検討し、おすすめの本紹介などを、より一層楽しみ、関心を持ちながら行うことができるように工夫する。

学習準備・・・理科の実験器具や体育の用具などを子どもたちに準備させることで、器具の名前を覚えたり、取り扱い方を理解したりできるようにしていく。

書く力育成・・・記述する（書く）力は国語の学習だけでなく、他教科においても育成を意識していく。
例：学習のふりかえり、算数での自分の考えを表記する場面、理科の実験・観察後の考察、社会科などで根拠を示して自分の考えを表す活動など

文章に慣れる・・・初めて読む文章に対する読解力を高めるため、読書活動とも連動して多くの文章と触れる機会を増やすとともに、文字数制限や指定された語句を使用した条件作文にも、学年に応じて取り組んでいく。

豊川スタンダード…学校生活や授業に関して、共通して実践していくことを、明文化したり視覚化したりして子どもたちが意識できるように働きかける。